※令和４年度以降入学生用

学校番号	1003

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	（学）看医数学	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	なし						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・「問題を解く→答え合わせをする→やり直す」ことを実践しましょう。
　ただ問題を解くことに満足せず、やり直しまでやり遂げましょう。
・ただ答えを求めるだけでなく、途中式や考え方も書くようにしましょう。
・ノートや宿題などの提出物は必ず提出するようにしましょう。
・分からないときは先生、周りの生徒に積極的に質問し、最後まで諦めずに取り組みましょう。

2　学習の到達目標

集合と命題、数と式、２次関数、図形と計量、データの分析、場合の数と確率，図形の性質について
(1) 基礎的な知識や技能を習得する。
(2) 事象を数学的に考察する能力を培う。
(3) 数学のよさを認識し、それらを活用しようとする態度を身に付ける。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の性質や計量について論理的に考察する力、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を考察し判断したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	数と式	数と式 実数 1次不等式	a:乗法公式や因数分解の公式の意味を理解している。簡単な無理数について四則計算ができる。絶対値の意味を理解している。不等式を解くことができる。 b:乗法公式や因数分解の公式などを目的に応じて処理することができる。連立不等式の解を数直線上に表すことができる。 c:式の展開や因数分解に関心をもち、目的に応じて式を変形しようとする。絶対値記号を含んだ方程式や不等式の扱い方を理解し、解いてみようとする。	定期考査	定期考査	授業ノート ワーク 観察
	集合と命題	集合と命題	a:ド・モルガンの法則の意味を理解し、問題解決に利用することができる。 b:必要条件、十分条件など数学的な論理に必要な言葉を適切に使って表現することができる。また、対偶を用いて命題の真偽を判定することができる。 c:命題の逆・裏・対偶の関係が条件を満たす集合の関係に対応していることに気付き、これらについて調べようとする。	定期考査	定期考査	授業ノート ワーク 観察
	２次関数	2次関数とグラフ 2次方程式と2次不等式	a:２次関数のグラフの頂点を求めることができる。 b:定義域が限られた２次関数における最大値・最小値は、頂点を考慮して求めることを理解できる。 c:２次関数のグラフとｘ軸との位置関係について調べて、２次不等式の解のタイプに関心をもつ。	定期考査	定期考査	授業ノート ワーク 観察

※令和４年度以降入学生用

２学期	図形と計量	三角比 正弦定理･余弦定理	a:正弦定理･余弦定理などを用いて、三角形の残りの要素を求めることができる。 b:三角比や正弦定理･余弦定理などを用いて平面図形や空間図形を計量することができる。 c:三角比を用いて三角形の面積や空間図形の計量に活用しようとする。	定期考査	定期考査	授業ノート ワーク 観察
	データの分析	データの分析	a:２つの変量の相関係数を求めることができる。 b:整理した表、図、値などの意味を理解し、そのデータの特性や法則性を的確にとらえることができる。 c:データから適切な代表値を得て、散らばり具合を整理し全体の傾向をつかもうとする。	定期考査	定期考査	授業ノート ワーク 観察
	場合の数と確率	場合の数 確率	a:反復試行の確率や条件付き確率の計算ができる。 b:いろいろな場面に応じて、場合の数や確率の求め方を考えることができる。 c:起こり得る場合の数を、もれや重複がないように、見通しをもって、能率的に調べようとする。	定期考査	定期考査	授業ノート ワーク 観察
３学期	図形の性質	三角形の性質 円の性質	a:重心・内心・外心の性質を用いて、角の大きさや線分の長さを求めることができる。 b:メネラウスの定理、チェバの定理を利用して、線分の比や長さを求めることができる。 c:平面図形の性質に興味･関心をもち、三角形の性質を利用しようとする。	定期考査	定期考査	授業ノート ワーク 観察

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度